

沖縄周辺重要水産資源調査

喜屋武俊彦・川崎一男・山本隆司

金城清昭・海老沢昭彦・兼浜安信

嘉数清

1 目的

沖縄周辺海域で網漁業、一本釣漁業の対象となる主要魚種について資源調査を恒久的に実施し、それぞれの資源の生態、資源の変動法則を明らかにして、沿岸近海漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

2 材料および方法

カツオ一本釣（本部、宮古、石垣）、カツオ類ひき縄（糸満）、タカサゴ類（県漁連）、アイゴ（勝連）の魚種と地区で次のような調査を行う。

1) 個体生態調査

漁獲物を通じて成長と年令、成熟、産卵、系統群、回遊等について知見を得る。

- a) 体長測定調査
- b) 体長、体重調査
- c) 胃内容物、生殖腺調査

2) 漁獲量調査

- a) 水揚地調査
- b) 標本船調査

3 結果の要約

1) 個体生態調査

カツオ一本釣のカツオの体長、体重を6月、9月、昭和56年3月に計219尾測定した。6月は47cmにモードをもつ小判群、9月は48cmにモードをもつ小判群と66cmにモードをもつ大判群、3月は44cmにモードをもつ小判群と67cmにモードをもつ大判群がみられた。胃内容物、生殖腺調査はカツオ62尾調査した。ひき縄ではヒラソウダ12尾、ヤイト13尾の体長、体重、胃内容物、生殖腺の調査を実施した。タカサゴ類では、タカサゴの体長、体重調査を824尾実施し、胃内容物、生殖腺調査を188尾実施した。ニセタカサゴの体長、体重調査を198尾実施し、胃内容物、生殖腺調査を76尾実施した。クマササハナムロの体長、体重調査を493尾実施し、胃内容物、生殖腺調査を140尾実施した。アイゴでは体長、体重調査を108尾実施し、胃内容物、生殖腺調査を31尾実施した。

2) 漁獲量調査

カツオ一本釣

昭和55年の本部の近海カツオ一本釣船の漁獲量は322,759kgで昨年比111%、1隻当たり漁獲量は107,586kgで昨年比の111%、盛漁期は8月であった。平良の漁獲量は118,818kgで昨年の102%、1隻当たり漁獲量は29,704kgでそれぞれ昨年並の漁であった。伊良部の漁獲量は619,024kgで昨年の157%で大巾に増加、1隻当たり漁獲量は103,170kgで昨年の131%と漁獲量同様昨年を上廻った。石垣の漁獲量は991,408kgで昨年比170%、1隻当たり漁獲量は110,156kgで昨年比189%とそれぞれ大幅に増加した。今年は3地区とも漁は良く、総漁獲量は2,955,427kgで昨年比212%で大幅に増加した。

南方基地のカツオ一本釣の総漁獲量は46,531.6トンで昨年比106%、1隻当たり漁獲量は846トンで昨年並であった。基地別にはソロモンが20,181.1トンの漁獲量で減少。パラオが1,749.5トンの漁獲量で減少。ラバウルが5,304.9トンの漁獲量で昨年並、キャビアンが19,346.1トンの漁獲量で昨年の約1.5倍と増加した。

ひき縄（糸満）

糸満漁協市場に水揚されたひき縄の総水揚量は31,084kgで昨年の103%で昨年並であった。魚種別にはカツオ類8,019.9kg（昨年比120%）、マグロ類4,604.9kg（84%）、サワラ類9,171.5kg（85%）、シイラ1,648.4kg（51%）、カジキ類7,639.3kg（194%）の水揚量があった。1日1隻当たりひき縄総水揚量は31.1kgで昨年の128%と増加した。

タカサゴ追込網（県漁連）

県漁連に水揚されたタカサゴ類の水揚量は545,418.2kgで昨年比75%と減少した。1日1隻当たり水揚量は640kgで昨年比74%と水揚量同様減少した。追込網の種類組成の比率はタカサゴ類が88.6%、スズメダイ類が0.7%、ニザダイ類が0.3%、ベラ類が1.1%、アジ類が0.5%その他の魚類が8.8%であった。

アイゴ（勝連）

勝連漁協市場に水揚されたアイゴの水揚量は12,165.3kg、1日1隻当たり水揚量は5.6kgであった。盛漁期は7月であった。

3 市場における主要魚種水揚

沖縄県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協に水揚されたハマダイ・ハマフエフキ・スジアラ類・アオリイカの4魚種について水揚量を調査した。県漁連に水揚されたハマダイは171,070.9kgで昨年比76%、ハマフエフキは31,650.3kgで昨年比107%、スジアラは78,004kgで昨年比83%、アオリイカは53,157.4kgで昨年比88%であった。那覇地区漁協に水揚されたハマダイは153,258kgで昨年比106%、ハマフエフキは882.5kgで昨年比338%、スジアラは2,024.5kgで昨年比119%、アオリイカは2,558.5kgで昨年比713%であった。糸満漁協に水揚されたハマ

ダイは 13,132.2kg で昨年比 152%、ハマフェフキは 26,003.2kg で昨年比 144%、スジアラは 15,392.3kg で昨年比 93%、アオリイカは 6,652.3kg で昨年比 207%であった。

この事業は国庫委託で昭和55年度沖縄周辺重要水産資源調査要綱に従って実施された。
なお調査結果等の詳細は“昭和55年度沖縄周辺重要水産資源調査結果報告書”として別冊で行った。